

問題 1

拡大体 $\mathbb{Q}(\sqrt{3})/\mathbb{Q}$ について、以下の問いに答えよ

1. $\mathbb{Q}(\sqrt{3})/\mathbb{Q} = \{a + b\sqrt{3} \mid a, b \in \mathbb{Q}\}$ であることを確認せよ. また拡大次数 $[\mathbb{Q}(\sqrt{3}); \mathbb{Q}]$ を求めよ.
2. $\mathbb{Q}(\sqrt{3})/\mathbb{Q}$ のガロア群 $Gal(\mathbb{Q}(\sqrt{3})/\mathbb{Q})$ を求めたい.
 - (a) f を $\mathbb{Q}(\sqrt{3})/\mathbb{Q}$ の自己同型写像とする. $f(1)$ および $f(\sqrt{3})$ が決まれば、写像 f 自体が定まることを示せ.
 - (b) f が $\mathbb{Q}(\sqrt{3})/\mathbb{Q}$ の自己同型写像となるための、 $f(1)$ および $f(\sqrt{3})$ に関する条件を求め $\mathbb{Q}(\sqrt{3})/\mathbb{Q}$ の自己同型写像を列挙せよ.
 - (c) $\mathbb{Q}(\sqrt{3})/\mathbb{Q}^{Gal(\mathbb{Q}(\sqrt{3})/\mathbb{Q})}$ を求めよ.
 - (d) $\mathbb{Q}(\sqrt{3})/\mathbb{Q}$ はガロア拡大かどうか判定せよ.

解答

1. $f(x) = x^2 - 3 \in \mathbb{Q}[x]$. $f(x)$ はアイゼンシュタインの判定法より $\mathbb{Q}[x]$ 上の既約多項式であり、 $\sqrt{3} \notin \mathbb{Q}$ より、 $\sqrt{3}$ の $\mathbb{Q}[x]$ 上の最小多項式の次数は 2 以上. よって、 $f(x)$ は $\mathbb{Q}[x]$ 上の最小多項式. したがって、 $\mathbb{Q}(\sqrt{3})$ は \mathbb{Q} 上のベクトル空間としての次元は 2 であり、基底として $\{1, \sqrt{3}\}$ が取れるので、 $\mathbb{Q}(\sqrt{3}) = \{a + b\sqrt{3} \mid a, b \in \mathbb{Q}\}$
 $[\mathbb{Q}(\sqrt{3}); \mathbb{Q}] = 2$
2. (a) $\forall a + b\sqrt{3}$ に対して、 f が \mathbb{Q} - 自己同型写像であることに注意して、 $f(a + b\sqrt{3}) = f(a) + f(b\sqrt{3}) = a \cdot f(1) + b \cdot f(\sqrt{3})$. よって、 $f(1), f(\sqrt{3})$ によって f が定まる.
- (b) f が \mathbb{Q} - 自己同型写像であることから、 $f(1) = 1$.
 $f(\sqrt{3}) \cdot f(\sqrt{3}) = f(\sqrt{3}^2) = f(3) = 3$. よって、 $f(\sqrt{3}) = \pm\sqrt{3}$.
 以上から、『 $f(1) = 1$ 』かつ『 $f(\sqrt{3}) = \pm\sqrt{3}$ 』
 よって、 $Gal(\mathbb{Q}(\sqrt{3})/\mathbb{Q}) = \{id, \sigma\}$. (ただし、 $\sigma(\sqrt{3}) = -\sqrt{3}$ となる写像)
- (c) $\mathbb{Q}(\sqrt{3})/\mathbb{Q}^{Gal(\mathbb{Q}(\sqrt{3})/\mathbb{Q})} = \{\alpha \in \mathbb{Q}(\sqrt{3}) \mid \forall \sigma \in Gal(\mathbb{Q}(\sqrt{3})/\mathbb{Q}), \sigma(\alpha) = \alpha\} = \mathbb{Q}$ を示す.
 - \subset
 $\forall \alpha = a + b\sqrt{3} \in \mathbb{Q}(\sqrt{3})/\mathbb{Q}^{Gal(\mathbb{Q}(\sqrt{3})/\mathbb{Q})}$ に対して、 $\sigma(a + b\sqrt{3}) = a - b\sqrt{3}$ より、
 $a + b\sqrt{3} = a - b\sqrt{3}$. ($\because \mathbb{Q}(\sqrt{3})/\mathbb{Q}^{Gal(\mathbb{Q}(\sqrt{3})/\mathbb{Q})}$ の定義)
 $\Leftrightarrow 2b\sqrt{3} = 0$
 $\Leftrightarrow b = 0$
 よって、 $\alpha = a \in \mathbb{Q}$
 - \supset は明らか
 以上から、 $\mathbb{Q}(\sqrt{3})/\mathbb{Q}^{Gal(\mathbb{Q}(\sqrt{3})/\mathbb{Q})} = \mathbb{Q}$
- (d) $\mathbb{Q}(\sqrt{3})/\mathbb{Q}^{Gal(\mathbb{Q}(\sqrt{3})/\mathbb{Q})} = \mathbb{Q}$ より、ガロア拡大
 $|\mathbb{Q}(\sqrt{3})/\mathbb{Q}^{Gal(\mathbb{Q}(\sqrt{3})/\mathbb{Q})}| = [\mathbb{Q}(\sqrt{3}); \mathbb{Q}] = 2$ からガロア拡大と言ってもよい

問題 2

ガロア理論の基本定理を $\mathbb{Q}(\sqrt{2}, \sqrt{3})/\mathbb{Q}$ について、確認したい

1. $\mathbb{Q}(\sqrt{2}, \sqrt{3})/\mathbb{Q}$ の拡大次数を求めよ。
2. $Gal(\mathbb{Q}(\sqrt{2}, \sqrt{3})/\mathbb{Q})$ を求めよ。
3. 中間体 $\mathbb{Q}(\sqrt{2})/\mathbb{Q}$ に対応する $Gal(\mathbb{Q}(\sqrt{2}, \sqrt{3})/\mathbb{Q})$ の部分群を求めよ。
4. $f \in Gal(\mathbb{Q}(\sqrt{2}, \sqrt{3})/\mathbb{Q})$ を $f(1) = 1, f(\sqrt{2}) = -\sqrt{2}, f(\sqrt{3}) = \sqrt{3}$ で定める自己同型写像とする。 $\{id, f\}$ は $Gal(\mathbb{Q}(\sqrt{2}, \sqrt{3})/\mathbb{Q})$ の部分群となるが、これに対応する中間体を求めよ。

解答

1.
 - $f(x) = x^2 - 2$ は $\sqrt{2} \notin \mathbb{Q}$ より、 \mathbb{Q} 上の最小多項式。よって、 $[\mathbb{Q}(\sqrt{2}); \mathbb{Q}] = 2$
 - $g(x) = x^2 - 3$ は $\sqrt{3} \notin \mathbb{Q}(\sqrt{2})$ より、 $\mathbb{Q}(\sqrt{2})$ 上の最小多項式。よって、 $[\mathbb{Q}(\sqrt{2}, \sqrt{3}); \mathbb{Q}(\sqrt{2})] = 2$

以上から、 $[\mathbb{Q}(\sqrt{2}, \sqrt{3}); \mathbb{Q}] = [\mathbb{Q}(\sqrt{2}, \sqrt{3}); \mathbb{Q}(\sqrt{2})] [\mathbb{Q}(\sqrt{2}); \mathbb{Q}] = 4$.

2. $Gal(\mathbb{Q}(\sqrt{2}, \sqrt{3})/\mathbb{Q})$ について

- まず、 $\mathbb{Q}(\sqrt{2}, \sqrt{3})/\mathbb{Q}$ がガロア拡大であることを示す
 $\sqrt{2} \notin \mathbb{Q}$ より、 $\sqrt{2}$ の \mathbb{Q} 上の最小多項式は $x^2 - 2$ であり、 \mathbb{Q} 上の共役は $\pm\sqrt{2}$.
 $\sqrt{3} \notin \mathbb{Q}$ より、 $\sqrt{3}$ の \mathbb{Q} 上の最小多項式は $x^2 - 3$ であり、 \mathbb{Q} 上の共役は $\pm\sqrt{3}$
 $\pm\sqrt{3}, \pm\sqrt{2} \in \mathbb{Q}(\sqrt{2}, \sqrt{3})$ より、 $\mathbb{Q}(\sqrt{2}, \sqrt{3})$ は正規拡大なので、ガロア拡大
 また、 $x^2 - 3$ は $\mathbb{Q}(\sqrt{2})$ 上の最小多項式でもあるので、拡大次数は $[\mathbb{Q}(\sqrt{2}, \sqrt{3}); \mathbb{Q}] = [\mathbb{Q}(\sqrt{2}, \sqrt{3}); \mathbb{Q}(\sqrt{2})] [\mathbb{Q}(\sqrt{2}); \mathbb{Q}] = 4$ となる。
- $\forall \sigma \in Gal(\mathbb{Q}(\sqrt{2}, \sqrt{3})/\mathbb{Q})$ に対して、 $\sigma(\sqrt{2})$ は $\sqrt{2}$ の K 上の共役となるので、 $\sigma(\sqrt{2}) = \pm\sqrt{2}$. 同様に、 $\sigma(\sqrt{3})$ は $\sqrt{3}$ の K 上の共役となるので、 $\sigma(\sqrt{3}) = \pm\sqrt{3}$
 よって、 id, σ ($\sigma(\sqrt{2}) = -\sqrt{2}, \sigma(\sqrt{3}) = \sigma\sqrt{3}$), τ ($\tau(\sqrt{2}) = \sqrt{2}, \tau(\sqrt{3}) = -\sqrt{3}$), ϕ ($\phi(\sqrt{2}) = -\sqrt{2}, \phi(\sqrt{3}) = -\sqrt{3}$), $Gal(\mathbb{Q}(\sqrt{2}, \sqrt{3})/\mathbb{Q})$ の元であり、拡大次数が 4 であることからこれが $Gal(\mathbb{Q}(\sqrt{2}, \sqrt{3})/\mathbb{Q})$ の全ての元である。

以上から、 $Gal(\mathbb{Q}(\sqrt{2}, \sqrt{3})/\mathbb{Q}) = \{1, \sigma, \tau, \phi\}$

3. ガロア理論の基本定理より、中間体 $\mathbb{Q}(\sqrt{2})/\mathbb{Q}$ に対応するガロア群は $Gal(\mathbb{Q}(\sqrt{2}, \sqrt{3})/\mathbb{Q}(\sqrt{2}))$ である。 $[\mathbb{Q}(\sqrt{2}, \sqrt{3}); \mathbb{Q}(\sqrt{2})] = 2$ より $|Gal(\mathbb{Q}(\sqrt{2}, \sqrt{3})/\mathbb{Q}(\sqrt{2}))| = 2$.
 よって、 $Gal(\mathbb{Q}(\sqrt{2}, \sqrt{3})/\mathbb{Q}(\sqrt{2}))$ は位数 2 の部分群である。
 $Gal(\mathbb{Q}(\sqrt{2}, \sqrt{3})/\mathbb{Q}(\sqrt{2}))$ は $\mathbb{Q}(\sqrt{2})$ の元を不変にするので、 $Gal(\mathbb{Q}(\sqrt{2}, \sqrt{3})/\mathbb{Q}(\sqrt{2})) = \{id, \tau\}$
4. $H = \{id, f\}$ とおく. ガロア理論の基本定理から、 $\mathbb{Q}(\sqrt{2}, \sqrt{3})^H$ が H に対応する中間体である。
 $\mathbb{Q}(\sqrt{2}, \sqrt{3})^H = \{\alpha \in \mathbb{Q}(\sqrt{2}, \sqrt{3}) \mid \forall \sigma \in H, \sigma(\alpha) = \alpha\} = \mathbb{Q}(\sqrt{3})$

$\{id, f\}$ は $\mathbb{Q}(\sqrt{3})$ の元を固定するので、対応する中間体は $\mathbb{Q}(\sqrt{3})$

中間体との対応のまとめ

1. 中間体が与えられたときにガロア群を求める方法の概要
 中間体を固定するような K-自己同型群を求める

2. ガロア群が与えられたときに中間体を求める方法の概要
与えられたガロア群で固定されている中間体を求める

問 3

$K = \mathbb{Q}(\sqrt{2})$, $L = \mathbb{Q}(\sqrt[4]{3})$ とする。全問と同様, K は \mathbb{Q} のガロア拡大である。

1. L は K のガロア拡大であることを示せ。
2. L は \mathbb{Q} のガロア拡大でないことを示せ。